

推薦する取り組み

園館名

ゾウの QOL 向上のための取り組み

横浜市立金沢動物園

推薦理由

当園のインドゾウ2頭は、これまで大きな怪我や病気もなく過ごしてきましたが、常同行動が頻発し、その削減が大きな課題となっていました。今回は、常同行動の減少に加え、ゾウの QOL 向上のために行った取り組みを3つに分けて紹介します。

①他の動物が葉を食べた後の枝の給与で採餌に時間を費やし、かつ、枝の栄養価が低いため全体の給与量を増やし採食時間の延長につながりました。また、担当者不在の夜間等にも給餌できるよう、タイマー式自動給餌機を設置しました。給水に関しては、寝室の水桶にセンサーを付け、ゾウが鼻をかざすと温水が出るようにしました。冬季に暖かいお湯が飲めるだけでなく、ゾウの望むタイミングで新鮮な水の給与が可能となりました。また、展示場ではこれまで水しか使用できなかったため、真夏以外の水浴びは多くありませんでしたが、清掃用の高圧洗浄機を活用し温水の放水を始めたことで水浴び時間が格段に増えました。

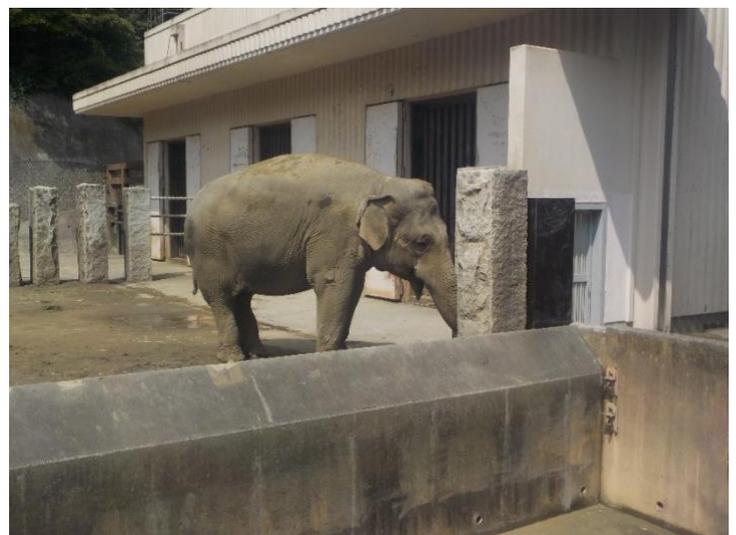
② コンクリートだった展示場と寝室に、それぞれ砂とおが粉を厚く敷きました。足への負担軽減のみならず、足裏が飛躍的に柔らかくなり削蹄頻度を大幅に減らすことができました。また、砂浴び等の新規行動を引き起こすこともできました。

③これまで、夜間は寝室収容としていましたが、現在冬季以外は展示場まで開放しています。運動量が増えただけでなく、早朝にプールで水浴び後、砂の上で転げ回る等生き生きとした行動が見られようになりました。

これらの取り組みは大学と共同で検証を行い、常同行動の減少が確認されています。当園の取り組みは、施設の建て替えや大掛かりな工事を伴わない、飼育員の手作業や既存施設の小改修で済ませたもののため、同じような悩みを抱えるゾウ飼育園でも参考にしやすいものであると思います。今後も継続してゾウの QOL 向上のための試行錯誤と効果測定を両輪として取り組んでいきます。



枝を食べるメス



自動給餌機からエサをとるメス



お湯浴びをするオス



寝室のおが粉床



砂浴びをするメス